

構造系実習 01：背部の浅層

日時：4月9日（火） 4～6 時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1)
体表から触診できる骨の指標と椎骨のレベルを対応づけられる。
2. ★D-3-1), D-4-1)
皮膚を切開翻転することにより、皮膚と皮下組織の構造を説明できる。
3. ★D-4-1)
背部浅層の筋（僧帽筋・広背筋および腰背腱膜）を同定できる。
4. ★D-4-1)
後頭下筋群を同定し、その作用（頭部の回旋や前・後屈）を説明できる。
5. ★D-4-1)
肩甲骨に停止する筋を同定し、その作用（上肢帯の運動）を説明できる。
6. ★D-4-1)
4群の固有背筋（回旋筋・半棘筋/多裂筋・最長筋・腸肋筋）を同定できる。
7. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
分節構造を保持する脊髄神経後枝の皮枝と固有背筋との関係を説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

脊柱, 椎骨, 頸椎, 胸椎, 腰椎, 仙骨, 棘突起, 上項線, 外後頭隆起, 肩峰, 肩甲骨, 腸骨稜, 大後頭神経, 上殿皮神経, 僧帽筋, 広背筋, 後頭下筋群, 固有背筋, 脊柱起立筋, 腸骨稜（ヤコビー線）

備考：

4/9(火)の昼休みに構造系実習に必要な器具等の販売を行なう（詳細については掲示を確認すること）。

実習マニュアルは4限開始前に実習説明講義をおこなう教室で配布する。

準備：

予習：教科書 「日本人体解剖学 上巻（南山堂）第20版」の p.343～353（体表解剖学）， pp.236～252（背部の筋）， pp.535～537（脊髄神経後枝）を読んでおく（30分程度）。（第19版の場合：p.395（体表解剖学）， pp.256～271（背部の筋）， pp.617～620（脊髄神経後枝））

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 02：脊柱と脊髄

日時：4月11日（木） 4～6 時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1)
脊柱の連結構造と椎骨のレベルによる違いを説明できる。
2. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
椎弓切除（laminectomy）により脊柱管内の構造について説明できる。
3. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
硬膜を正中切開して脊髄を摘出し、脊髄髄膜の構造を説明できる。
4. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
脊髄の外観から、頸膨大・腰膨大・脊髄円錐・終糸の各レベルを判別できる。
5. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
脊髄表面の溝・裂・神経根・動脈・静脈などの構造を同定できる。

6. ★D-2-1)-(2), D-4-1)

数箇所の脊髄神経根を剖出することで椎間孔の構造を理解できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

椎間板, 椎間関節, 横突起, 硬膜, 硬膜上腔, クモ膜, クモ膜下腔, 脳脊髄液, 軟膜, 脊髄, 頸膨大, 腰膨大, 脊髄円錐, 終糸, 馬尾, 前根, 後根, 椎孔, 脊柱管, 椎間孔, 脊髄神経節, (頸部・腰部) 椎間板ヘルニア, (変形性) 脊椎症, 後縦靭帯骨化症

準備：

予習：実習マニュアル(第2回)を予習する(30分程度)。

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習 03：頸部の浅層

日時：4月12日(金) 4~6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-2-1)-(2), D-4-1)

脊髄神経の前枝が神経叢を形成することを説明できる。

2. ★D-2-1)-(2), D-4-1)

胸鎖乳突筋の後縁から出現する頸神経叢の皮枝とその受容野を説明できる。

3. ★D-6-1), D-14-1)

気管と甲状軟骨の表面を剖出して、気管切開の術式を説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

広頸筋, 胸鎖乳突筋, 頸神経叢(鎖骨上神経, 頸横神経, 大耳介神経, 小後頭神経), 鎖骨, 外頸静脈, 胸骨舌骨筋, 甲状軟骨, 甲状腺, 気管, 気管切開

準備：

予習：実習マニュアル(第3回)を予習する。(30分程度)

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習 04：頸・胸部の浅層

日時：4月16日(火) 4~6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1), D-5-1)

前胸壁の筋と皮静脈の走行を説明できる。

2. ★D-4-1), D-6-1)

胸郭を構成する筋とその作用(呼吸と吸息)を説明できる。

3. ★D-2-1)-(2), D-4-1)

分節性の肋間神経の受容野(デルマトーム)を説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

三角筋胸筋溝, 橈側皮静脈, 胸腹壁静脈, 肋間神経, 大胸筋, 小胸筋, 前鋸筋

準備：

予習： 実習マニュアル（第4回）を予習する。（30分程度）

復習： 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 05：腹部の浅層と開腹

日時：4月18日（木） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1)
腹直筋および側腹筋の作用と、周囲の結合組織の構造を説明できる。
2. ★D-4-1)
前腹壁の指標となる剣状突起・臍・臍径部を受容野とする髄節を説明できる。
3. ★C-2-4), D-4-1), D-5-1), E-7-1)
前腹壁の壁側腹膜のヒダについて胎児循環の痕跡として説明できる。
4. ★C-2-4), D-4-1), D-7-4)-(7), D-9-1)
男性の精巣下降（臍径管の発生過程）と臍径ヘルニアの病態を説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

臍径靭帯, 腹直筋, 腹直筋鞘, 弓状線, 外/内腹斜筋, 腹横筋, 肋間神経, 臍径管, 浅/深臍径輪, 精索, 精巣下降, 子宮円索, 下腹壁動静脈, デルマトーム

準備：

予習： 実習マニュアル（第5回）を予習する。（30分程度）

復習： 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 06：頸部の深層

日時：4月19日（金） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-2-1)-(2), D-4-1), D-5-1)
頚動脈鞘に含まれる脈管と神経を確認し、周囲の局所解剖を説明できる。
2. ★D-2-1)-(2), D-4-1), D-6-1), D-14-1)
頚神経叢の筋枝（頚神経ワナと横隔神経）を同定し、それらの走行を説明できる。
3. ★D-2-1)-(2), D-4-1), D-14-1)
舌骨下筋群の支配神経と髄節レベルを説明できる。
4. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
頚神経叢と腕神経叢のレベルを頚膨大との関係から説明できる。
5. ★D-2-1)-(2), D-14-1)
喉頭の運動と知覚に関わる末梢神経の走行を説明できる。
6. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
腕神経叢の基本構成（神経幹・神経束・末梢神経）を説明できる。
7. ★D-2-1)-(3), D-14-1)
舌の運動と知覚に関わる末梢神経の走行を説明できる。
8. ★D-2-1)-(3), D-5-1), D-14-1)
顎下三角に観察される構造を列挙できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

頸筋膜，総頸動脈，内頸静脈，迷走神経，肩甲舌骨筋，外頸動脈の分枝（上甲状腺動脈，舌動脈，顔面動脈など），頸神経ワナ，舌下神経，舌下腺，顎二腹筋，舌骨下筋群，甲状舌骨膜，上喉頭神経，下喉頭神経（反回神経），前斜角筋，横隔神経，顎下腺，輪状甲状筋，腕神経叢

準備：

予習： 実習マニュアル（第6回）を予習する。（30分程度）

復習： 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 07：腋窩と上肢帯

日時：4月23日（火） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1)
腋窩の壁と上肢帯を構成する筋を列挙できる。
2. ★D-4-1)
肩鎖関節と肩関節について説明できる。
3. ★D-2-1)-(2), D-4-1), D-5-1)
内側・外側腋窩隙の構造を説明し，通過する血管と神経を列挙できる。
4. ★D-5-1)
鎖骨下動脈の分枝について担当遺体の所見と一般的なパターンを説明できる。
5. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
鎖骨の上下で観察される腕神経叢の幹・束・分枝（と髓節レベル）を説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

鎖骨下動脈，椎骨動脈，内胸動脈，甲状頸動脈，肋頸動脈，腋窩神経，筋皮神経，正中神経，尺骨神経，橈骨神経，大／小円筋，広背筋，肩甲下筋，前鋸筋，烏口腕筋，上腕二頭筋，上／中／下神経幹，内側／外側／後神経束

準備：

予習： 実習マニュアル（第7回）を予習する。（30分程度）

復習： 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 08：上腕と肘関節

日時：4月25日（木） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1)
解剖学的姿勢で上肢の前／後（屈筋群／伸筋群）について説明できる。
2. ★D-4-1)
内側／外側上腕筋間中隔について説明できる。
3. ★D-5-1)
上腕動脈の定義・走行・分枝について説明できる。
4. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
上肢の運動・知覚神経と腕神経叢の関係について説明できる。

5. ★D-4-1)

肘を構成する関節とその可動域について説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

屈筋群（上腕二頭筋，烏口腕筋，上腕筋），伸筋群（上腕三頭筋），腕橈骨筋，筋皮神経，正中神経，尺骨神経，腋窩神経，橈骨神経，肘関節（上橈尺関節，腕尺関節，腕橈関節）

準備：

予習：実習マニュアル（第8回）を予習する。（30分程度）

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 09：前腕・手関節・手

日時：4月26日（金） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1)
手関節の屈筋と伸筋を列挙できる。
2. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
屈筋支帯と伸筋支帯を通過する筋と神経を列挙できる。
3. ★D-4-1), D-4-4)-(1)
手根管症候群について説明できる。
4. ★D-4-1)
母指球筋と小指球筋を列挙し，その作用（対立運動など）を説明できる。
5. ★D-4-1)
指の運動（屈曲・伸展・内転・外転）に関わる筋の作用を説明できる。
6. ★D-5-1)
橈骨動脈と尺骨動脈の走行と手における分枝について説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

手根屈筋群，手根伸筋群，掌屈（palmar flexion），背屈（dorsiflexion = 伸展 extension），屈筋支帯，手根管（carpal tunnel），伸筋支帯，母指球筋，母指対立筋，小指球筋，小指対立筋，背側/掌側骨間筋，浅/深掌動脈弓，母指主動脈，指の屈筋/伸筋，指の神経/血管

準備：

予習：実習マニュアル（第9回）を予習する。（30分程度）

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 10：開胸・胸腔内臓器

日時：4月30日（火） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1), D-5-1), D-6-1), D-7-1)
前胸壁をはずすことにより，胸腔内臓器を観察する。
2. ★D-6-1)
気管分岐部・肺門・横隔膜の高さ（椎骨のレベル）について説明できる。

3. ★D-6-1)
胸郭と胸膜の関係および胸膜腔について説明できる。
4. ★C-2-4), D-6-1)
肺の栄養血管と機能血管について発生学の視点から説明できる。
5. ★D-5-1)
心膜の構造を説明できる。
6. ★C-2-4), D-5-1)
心膜横洞と心膜斜洞について発生学の視点から説明できる。

実習共通項目： ★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

気管分岐部, 肺尖, 肺底, 肺門, 肺動脈〔幹〕, 心膜(心嚢), 心膜腔, 線維性心膜, 漿膜性心膜, 横隔神経, 心膜横洞, 心膜斜洞, 背側心間膜, 心底, 心尖, 内/外肋間筋, 肋間動/静脈, 内胸動脈, 壁側胸膜, 臓側(肺)胸膜, 肋骨横隔洞, 肋骨縦隔洞

準備：

予習： 実習マニュアル(第10回)を予習する。(30分程度)

復習： 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習11：肺と心臓

日時：5月1日(水) 4~6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-6-1)
左右の肺について肺葉の構造と裂について説明できる。
2. ★D-6-1)
肺区域の概念と気管支・肺動脈・肺静脈の走行パターンを説明できる。
3. ★D-5-1)
大動脈弓の主幹分枝を列挙し、その還流領域について説明できる。
4. ★D-5-1)
冠状動脈と冠状静脈洞について説明できる。
5. ★C-2-4), D-5-1), E-7-1)
胎児と成人の循環動態の違いから心房中隔と心室中隔の構造を説明できる。
6. ★D-5-1)
動脈弁と房室弁の構造と血流に対する機能について説明できる。
7. ★C-2-4), D-5-1)
心臓骨格と心筋の方向性および特殊心筋の走行について説明できる。

実習共通項目： ★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

大動脈洞, 上行大動脈, 大動脈弓, 下行大動脈(胸大動脈), 腕頭動脈, 左総頸動脈, 左鎖骨下動脈, 右冠状動脈, 左冠状動脈(前室間枝, 回旋枝), 冠状静脈洞, 左心房斜静脈, 心房中隔(卵円窩, 橈状筋, 分界稜), 心室中隔(膜性部, 筋性部), 肉柱, 房室弁(僧帽弁, 三尖弁), 弁尖, 腱索, 乳頭筋, 大動脈弁, 肺動脈弁, 半月弁, 室上稜, 中隔縁柱, 特殊心筋(刺激伝導系), 線維輪, 心渦

準備：

予習： 実習マニュアル(第11回)を予習する。(30分程度)

復習： 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習 12 : 縦隔と横隔膜

日時 : 5月2日(木) 4~6時限

担当者 : 永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容 :

1. ★D-5-1)
胸大動脈から分岐する肋間動脈の走行について説明できる。
2. ★D-5-1)
担当遗体で(変異の著しい)奇静脈系の走行パターンについて説明できる。
3. ★D-2-1)-(7), D-5-1)
縦隔の構造のうち, 交感神経幹とその分枝および胸管について説明できる。
4. ★D-7-1), D-14-1)
咽頭につづく食道と, その周辺構造について説明できる。
5. ★D-4-1), D-6-1), D-7-1)
横隔膜の付着部・腱中心・(裂)孔について説明できる。

実習共通項目 : ★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード :

胸大動脈, 肋間動脈, 肋間静脈, 奇静脈, 半奇静脈, 副半奇静脈, 交感神経幹, 乳び槽, 胸管, 静脈角, 食道, 横隔膜, 腰椎部, 肋骨部, 胸骨部, 内側脚/外側脚, 内側/外側弓状靭帯, 食道裂孔, 大動脈裂孔, 大静脈孔, 胸肋三角

準備 :

予習 : 実習マニュアル(第12回)を予習する。(30分程度)

復習 : 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習 13 : 腹壁と腹膜

日時 : 5月7日(火) 4~6時限

担当者 : 永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容 :

1. ★D-7-1)
臓側腹膜・壁側腹膜・腸間膜の関係について説明できる。
2. ★D-7-1)
腸間膜根の位置と小腸・大腸との関係について説明できる。
3. ★C-2-4), D-5-1), D-7-1), E-7-1)
前腹壁の裏側に観察される壁側腹膜のヒダとその内容を列挙できる。
4. ★C-2-4), D-5-1), D-7-1)
前腸・中腸・後腸の区分とその栄養血管について発生学の視点から説明できる。

実習共通項目 : ★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード :

胃, 十二指腸, 肝臓, 大網, 小網, 空腸, 回腸, 盲腸, 虫垂, 上行結腸, 横行結腸, 下行結腸, S状結腸, 直腸, 腹大動脈, 背側腸間膜, 腹腔動脈, 上腸間膜動脈, 下腸間膜動脈, 漿膜, 正中臍ヒダ(尿管), 内側臍ヒダ(臍動脈索), 外側臍ヒダ(下腹壁動静脈)

準備 :

予習 : 実習マニュアル(第13回)を予習する。(30分程度)

復習 : 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習 14 : 中腸と後腸に由来する臓器

日時 : 5月9日(木) 4~6時限

担当者 : 永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容 :

1. ★C-2-4), D-7-1)
中腸ループの回転と後腹壁への2次的固着(背側腸間膜)について説明できる。
2. ★C-2-4), D-7-1)
中腸と後腸を脱転して胎児期(回転前)の位置関係を再現できる。
3. ★C-2-4), D-5-1), D-7-1)
上/下腸間膜動脈の分岐の特徴から血液供給の共通パターンを説明できる。
4. ★C-2-4), D-7-1)
胃の大弯・横行結腸・大網の位置関係と腹膜(腔)の発生について説明できる。
5. ★D-7-1)
十二指腸空腸曲から回腸末端にかけて輪状ヒダの形状の違いを説明できる。

実習共通項目 : ★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード :

中腸, 卵黄腸管, メッケル憩室, 腸間膜根, 直動脈, 網状の動脈吻合, 空腸動脈, 回腸動脈, 回結腸動脈, 回盲弁, 盲腸, 虫垂, 上行結腸, 右結腸動脈, 横行結腸, 中結腸動脈, 後腸, 左結腸曲, 下行結腸, 左結腸動脈, S状結腸動脈, 直腸, 上/中/下直腸動脈

準備 :

予習 : 実習マニュアル(第14回)を予習する。(30分程度)

復習 : 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習 15 : 前腸に由来する臓器

日時 : 5月10日(金) 4~6時限

担当者 : 永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容 :

1. ★C-2-4), D-7-1)
胃の小弯と大弯および小網と大網の位置関係を発生学的に説明できる。
2. ★C-2-4), D-7-1)
胃と十二指腸の肉眼構造と胎生期の回転を説明できる。
3. ★C-2-4), D-7-1)
前腸由来の臓器の脱転により腹側/背側腸間膜との関係を再確認できる。
4. ★D-5-1), D-7-1)
担当遺体の腹腔動脈の分枝所見と一般的な(共通)パターンを説明できる。
5. ★D-7-1)
胃と十二指腸の粘膜の形状について説明できる。
6. ★C-2-4), D-5-1), D-7-1), E-7-1)
肝臓表面の間膜と臓側面にみられる脈管(痕跡)との関係を説明できる。
7. ★D-7-1)
肝臓の臓側面(肝門を中心としたH字型の溝)を観察する。
8. ★C-2-4), D-7-1)
膵臓の発生と後腹壁への二次的な固着について説明できる。
9. ★D-5-1), D-7-1)
膵頭部における腹腔動脈系と上腸間膜動脈系の吻合について説明できる。

10. ★D-1-1), D-5-1)

脾臓の概観と断面を観察し、血管構造との関係を考察する。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

前腸、胃、噴門、幽門、大弯、小弯、胃底、胃体、角切痕、幽門前庭、大網、小網、肝鎌状間膜、肝胃間膜、肝十二指腸間膜、肝円索、腹腔動脈、左胃動脈、総肝動脈、脾動脈、門脈、十二指腸（Cループ、上部、下行部、水平部、上行部、大十二指腸乳頭）、膵臓、膵切痕、膵頭、膵体、膵尾、主膵管、総胆管、肝門、クイノーの区域分類

準備：

予習：実習マニュアル（第15回）を予習する。（30分程度）

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 16：後腹膜臓器と骨盤内臓器

日時：5月14日（火） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-5-1)
腹大動脈と下大静脈の位置関係を説明できる。
2. ★D-5-1), D-8-1)
腎臓の血管と断面構造について、尿の生成機構から説明できる。
3. ★D-5-1), D-12-1)
副腎の血管と断面構造について、内分泌機能の視点から説明できる。
4. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
腰仙骨神経叢の分枝の支配筋と知覚の受容野を説明できる。
5. ★D-5-1), D-7-1), D-8-1), D-9-1), D-10-3)
男性と女性について骨盤腔の臓器と周囲の腹膜の構造を説明できる。
6. ★D-5-1), D-7-1), D-8-1)
男女共通の骨盤内臓器と周囲の腹膜の構造を説明できる

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

腹大動脈、下大静脈、腎臓、腎動脈、総腸骨動脈、内腸骨動脈、外腸骨動脈、腎盤（腎盂）、副腎、膀胱直腸窩、直腸子宮窩（ダグラス窩）、直腸、尿管、膀胱、精巣、精管、前立腺、卵巣、卵管、子宮、尿生殖隔膜、骨盤隔膜、腰仙骨神経叢

準備：

予習：実習マニュアル（第16回）を予習する。（30分程度）

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 17：骨盤の内壁と外壁

日時：5月16日（木） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1)
股関節を構成する骨の部分と可動範囲を説明できる。

2. ★D-4-1)
腸腰筋の付着と下肢に対する作用を説明できる。
3. ★D-4-1), D-9-1), D-10-3)
大骨盤と小骨盤の境界と骨産道について説明できる。
4. ★D-5-1), D-8-1)
尿管・腎筋膜・総腸骨動脈の位置関係を説明できる。
5. ★D-2-1)-(2), D-4-1), D-5-1)
梨状筋下孔を通る神経と血管を列挙できる。
6. ★D-4-1)
内閉鎖筋の腱と小坐骨切痕との関係を説明できる。
7. ★D-2-1)-(2), D-4-1), D-5-1), D-7-1), D-9-1)
陰部神経と内陰部動脈の走行経路を説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

腸腰筋, 岬角, 弓状線, 大骨盤と小骨盤(産道), 大殿筋, 中殿筋, 小殿筋, 梨状筋, 内閉鎖筋, 坐骨切痕, 坐骨棘, 坐骨結節, 梨状筋下孔, 上/下双子筋, 坐骨神経, 後大腿皮神経, 坐骨直腸窩, 陰部神経, 内陰部動脈, 仙棘靭帯, 仙結節靭帯, 大腿神経, 閉鎖神経, 陰部神経管(陰部神経, 内陰部動脈)

準備：

予習：実習マニュアル(第17回)を予習する。(30分程度)

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習 18：下肢帯・大腿・膝

日時：5月17日(金) 4~6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1)
大腿伸側・屈側・内側の筋群とその作用について説明できる。
2. ★D-4-1)
大腿四頭筋・内転筋群・ハムストリングスの作用を説明できる。
3. ★D-2-1)-(2), D-4-1), D-5-1)
外側大腿筋間中隔・内転筋管・内転筋腱裂孔を通過する脈管・神経を説明できる。
4. ★D-4-1)
膝関節と支持組織について説明できる。
5. ★D-5-1)
大腿動脈から膝窩動脈にかけての走行と分枝について説明できる。
6. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
大腿神経・閉鎖神経・坐骨神経・後大腿皮神経の走行経路を説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

大腿四頭筋(大腿直筋, 内側/中間/外側広筋), ハムストリングス(大腿二頭筋, 半腱様筋, 半膜様筋), 内転筋群, 縫工筋, 薄筋, 外側大腿筋間中隔, 膝蓋骨, 膝蓋靭帯, 膝十字靭帯, 内側/外側側副靭帯, 鵞足, 関節半月, 内転筋管, 内転筋腱裂孔, 大腿動脈, 膝窩動脈

準備：

予習：実習マニュアル(第18回)を予習する。(30分程度)

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習 19：下腿・距腿関節・足

日時：5月21日（火） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-4-1)
下腿前面と後面の筋の作用（背屈と底屈）について説明できる。
2. ★D-2-1)-(2), D-4-1), D-5-1)
屈筋支帯・伸筋支帯・腓骨筋支帯を通過する筋・神経・血管を列挙できる。
3. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
坐骨神経から分れる脛骨神経と浅/深腓骨神経の走行について説明できる。
4. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
脛骨神経と浅/深腓骨神経の支配筋・受容野（デルマトーム）について説明できる。
5. ★D-5-1)
前脛骨動脈と後脛骨動脈の走行について説明できる。
6. ★D-4-1)
足関節（距腿関節）を構成する骨の部分と可動域について説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

屈筋支帯, 伸筋支帯, 腓骨筋支帯, 下腿三頭筋（腓腹筋, ヒラメ筋）, 踵骨腱（アキレス腱）, 前脛骨筋, 脛骨神経, 総腓骨神経（浅/深腓骨神経）, 前脛骨動脈, 後脛骨動脈, 足背動脈, 足底動脈弓

準備：

予習：実習マニュアル（第19回）を予習する。（30分程度）

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 20：頭部の浅層

日時：5月23日（木） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-2-1)-(1), D-2-1)-(3), D-2-1)-(4), D-2-1)-(6), D-2-4)-(5), D-4-1), D-7-1)
三叉神経痛・顔面神経麻痺・顔面外傷（耳下腺管損傷）の要点を説明できる。
2. ★D-2-1)-(3), D-2-1)-(4), D-4-1), D-7-1)
咀嚼筋の作用と支配神経について説明できる。
3. ★D-2-1)-(3), D-2-1)-(4), D-2-1)-(5), D-4-1)
顔面の表情筋の作用と支配神経の分布を説明できる。
4. ★D-2-1)-(1), D-2-4)-(1), D-4-1)
浅側頭動脈による脳虚血の治療法（STA-MCA bypass）について説明できる。

実習共通項目：★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

咀嚼筋（側頭筋, 咬筋）, 表情筋（眼輪筋, 口輪筋, 鼻唇溝）, 三叉神経の主要分枝（眼窩上神経, 眼窩下神経, オトガイ神経）, 顔面神経の分枝（側頭枝, 頬骨枝, 頬筋枝, 下顎縁枝, 頸枝）, 耳下腺神経叢, 茎乳突孔, 外頸動脈の分枝（上甲状腺動脈, 舌動脈, 顔面動脈, 後頭動脈, 顎動脈, 浅側頭動脈）

準備：

予習：実習マニュアル（第20回）を予習する。（30分程度）

復習：実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 21 : 頭頸部の離断と正中断

日時 : 5月24日(金) 4~6時限

担当者 : 永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容 :

1. ★D-2-1)-(2), D-4-1)
頭の運動における環椎後頭関節と正中/外側環軸関節の役割を説明できる。
2. ★D-4-1)
頭蓋頸椎移行部の特徴と脊柱の支持構造について説明できる。
3. ★D-4-1), D-5-1)
椎骨動脈の走行の特徴を説明できる。
4. ★D-4-1), D-14-1)
鼻腔と副鼻腔の構造と両者の交通について説明できる。
5. ★D-4-1), D-5-1), D-7-1), D-14-1)
外頸動脈の主な枝について説明できる。

実習共通項目 : ★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード :

大(後頭)孔, 環椎後頭関節, 正中/外側環軸関節, 椎骨動脈, 横突孔, 斜台, 蓋膜, 後縦靭帯, 黄色靭帯, 外鼻, 鼻腔, 嗅上皮, 後鼻孔, 上顎洞, 前頭洞, 蝶形骨洞, 篩骨蜂巢, 半月裂孔, 篩骨漏斗, 鼻涙管, 蝶篩陥凹, トルコ鞍, 口蓋, 咽頭, 耳管咽頭口, 耳閉感

準備 :

予習 : 実習マニュアル(第21回)を予習する。(30分程度)

復習 : 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する(50分程度)。

構造系実習 22 : 頭部の深層

日時 : 5月29日(水) 4~6時限

担当者 : 永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容 :

1. ★D-2-1)-(3), D-4-1), D-7-1)
側頭筋・咬筋・内側/外側翼突筋の付着と咀嚼における作用について説明できる。
2. ★D-4-1), D-5-1), D-7-1), D-14-1)
顎動脈の分枝を列挙し, 通過する骨性構造について説明できる。
3. ★D-2-1)-(3), D-2-1)-(6), D-4-1), D-7-1), D-14-1)
下顎神経の分枝を列挙し, 舌の知覚と味覚の求心路について説明できる。
4. ★D-2-1)-(3), D-4-1), D-7-1), D-14-1)
上顎神経の分枝を列挙し, 翼口蓋窩を中心とした交通について説明できる。
5. ★D-2-1)-(3), D-2-1)-(6), D-4-1), D-7-1)
顔面神経の走行経路(茎乳突孔および耳下腺神経叢)について説明できる。
6. ★D-2-1)-(3), D-4-1), D-7-1), D-14-1)
顎下腺と舌下腺の位置と神経支配について説明できる。

実習共通項目 : ★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード :

顎関節, 内側/外側翼突筋, 顎動脈とその枝(中硬膜動脈, 下歯槽動脈など), 下顎神経, 下歯槽神経, 顎舌骨筋神経, 舌神経, 鼓索神経, 深側頭神経, 耳介側頭神経, 上顎神経, 翼口蓋神経節, 大/小口蓋神経, 翼突管神経, 顎下三角

準備：

予習： 実習マニュアル（第22回）を予習する。（30分程度）

復習： 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 23：口腔・咽頭・喉頭

日時：5月30日（木） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-2-1)-(3), D-4-1), D-7-1), D-14-1)
口腔内の構造と口蓋帆を動かす筋の作用について説明できる。
2. ★D-4-1), D-6-1), D-7-1), D-14-1)
咽頭（鼻部・口部・喉頭部）と鼻腔・口腔・気道との交通を説明できる。
3. ★D-6-1), D-14-1)
喉頭の基本構造について説明できる。
4. ★D-4-1), D-7-1), D-14-1)
咽頭収縮筋・咽頭挙筋・咽頭縫線・咽頭頭底板など、咽頭の外壁を観察する。
5. ★D-2-1)-(3), D-4-1), D-7-1), D-14-1)
茎突咽頭筋を剖出して、その後方を走る舌咽神経の本幹とその分枝を観察する。
6. ★D-4-1), D-6-1), D-14-1)
耳管開口部を中心として、中耳（鼓室）・口蓋帆の筋との関係について説明できる。
7. ★D-2-1)-(3), D-6-1), D-14-1)
声門の開閉と喉頭軟骨を動かす筋の作用を説明できる。

実習共通項目： ★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

口腔、口腔前庭、歯列、口蓋、ワルダイエルの咽頭輪、口蓋帆挙筋、口蓋帆張筋、耳管咽頭口、咽頭（鼻部、口部、喉頭部）、声門、声帯、甲状軟骨、輪状軟骨、披裂軟骨、喉頭筋、舌咽神経、舌骨、上喉頭神経、下喉頭神経（反回神経）

準備：

予習： 実習マニュアル（第23回）を予習する。（30分程度）

復習： 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造系実習 24：内頭蓋底と眼窩

日時：5月31日（金） 4～6時限

担当者：永島 雅文(解剖学) 藤田 恵子(解剖学) 高野 和敬(解剖学) 栗崎 知浩(解剖学) 青地 英和(解剖学)

内容：

1. ★D-2-1)-(1), D-2-1)-(3), D-4-1)
12対の脳神経の通過経路について説明できる。
2. ★D-2-1)-(1), D-2-1)-(3), D-2-1)-(4), D-4-1), D-13-1)
眼窩内の構造（眼球・外眼筋・涙腺など）について説明できる。
3. ★D-2-1)-(1), D-4-1)
硬膜を復元して、大脳鎌と小脳テントの付着部について説明できる。
4. ★D-2-1)-(1), D-4-1)
前/中/後頭蓋窩を分ける境界について説明できる。

5. ★D-2-1)-(1), D-2-1)-(3), D-4-1)
テント切痕と脳幹の関係について説明できる。

6. ★D-2-1)-(1), D-4-1)
硬膜静脈洞から内頸静脈に至る経路について説明できる。

実習共通項目： ★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1), C-2-2)-(2), C-2-4)

キーワード：

眼窩，外眼筋，動眼神経，滑車神経，外転神経，視神経管，総腱輪，上眼窩裂，眼動脈，側頭骨錐体，前/中/後頭蓋窩，大脳鎌，小脳テント，テント切痕，硬膜静脈洞（上/下矢状静脈洞，直静脈洞，静脈洞交会，横静脈洞，S状静脈洞，海綿静脈洞，上/下錐体静脈洞），内頸静脈

準備：

予習： 実習マニュアル（第24回）を予習する。（30分程度）

復習： 実習マニュアルと教科書等を用いて実習内容について復習する（50分程度）。

構造 25：まとめ

日時：6月10日（月） 3時限

担当者：永島 雅文(解剖学)

内容：

全実習内容のまとめ

★A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-5-1), C-2-2)-(1)・(2), C-2-4), D-1-1), D-2-1)-(1)～(7), D-2-4)-(1)・(5), D-3-1), D-4-1), D-4-4)-(1), D-5-1), D-6-1), D-7-1), D-7-4)-(7), D-8-1), D-9-1), D-10-3), D-12-1), D-13-1), D-14-1), E-7-1)

準備：

予習： これまで実習した内容について実習マニュアルを復習する。（50分程度）

復習： 本実習ユニットで学習した内容について、当日配布プリントおよび実習マニュアルと教科書等を用いて理解を深める（60分程度）。